

長崎県の食材を使用した商品開発活動

～ 新型コロナウイルス感染症蔓延による地域活動への影響と対応 ～

Product Development Activities Using Ingredients from Nagasaki Prefecture

～ Impact on local activities and response to the spread of new coronavirus infection ～

市瀬 尚子^{*1} 平田 安喜子^{*2}
Naoko ICHISE Akiko HIRATA

要旨：

長崎短期大学 地域共生学科 製菓コースでは、平成 25 年度より長崎県の特産品を使用した商品開発活動を続けている。令和元年度までは、試食会や販売等を通して地域の方と交流する活動の 1 つであったが、令和 2 年度以降、新型コロナウイルス感染症蔓延により他者と接触は大きな制限を伴い、令和 2 年度 4 月よりオンライン・オンデマンド授業が開始し、令和 3 年度～令和 4 年度に関しても同様に学生の学びの活動は制約を受けることになった。

商品開発活動は、キャップストーン科目としての役割を果たすため、新たな取り組みを行った活動内容を記録したものである。

キーワード：商品開発、地産地消、学生

Abstract：

Since 2013, the Confectionery Course of the Department of Community Studies at Nagasaki Junior College has been developing products using Nagasaki Prefecture's local products. Until the first year of the current school year, this was one of the activities to interact with the local community through food. However, since the spread of the new coronavirus in 2020, close contact has been restricted, online classes demand began in April 2020, and student learning activities were similarly restricted in FY2021 and FY2022.

The product development activities are a record of the activities newly undertaken to fulfill the role of the capstone course.

Keywords：product development, local production for local consumption, students

1. はじめに

本活動は当初（平成 25 年度）、長崎短期大学 地域共生学科 製菓コース（以下、本コース）2 年生を対象に希望者を募り、地産地消をテーマに開始した。その後、「総合演習Ⅰ」「総合演習Ⅱ」として開講し、2 年間のキャップストーン科目に位置付け、現在に至る。

本稿では、令和 3 年度から令和 4 年度において、新型コロナウイルス感染症蔓延の渦中に地域とのつながりが制限される中、学生の学習成果披露として行った活動内容を記録する。

「総合演習Ⅰ」は 1 年生が履修し、商品開発およびマジパン制作を経験するカリキュラムに対し、「総合演習Ⅱ」は 2 年生が選択する分野を選択し、マジパン制作では 6 月に開催される長崎県洋菓子技術コンテストへの出品

※ 1 長崎短期大学地域共生学科製菓コース

※ 2 長崎短期大学地域共生学科製菓コース

を、商品開発では地域活動を加えながら活動を行った。

本稿では、「総合演習Ⅰ」および「総合演習Ⅱ」の商品開発に関する活動を述べる。

2. 目的

1で述べたように総合演習ⅠおよびⅡは、必修科目に取り入れた活動内容であり、更に本コースのキャップストーン科目として設定されており、2年間の学びの総合科目である。1年次で基本的な専門知識・技術を学び、2年次には菓子製造に関する学習体験をもとに、自己のキャリアを主体的にデザインする能力を習得し、製菓衛生師として将来へとつながる糧となるよう授業を進めている。

3. 対象学生

〈令和3年度〉

1年生17名（うち留学生3名）

2年生5名（うち留学生1名）

〈令和4年度〉

1年生9名（留学生7名は未履修）

2年生8名

4. 新型コロナウイルス感染症による影響

令和2年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の感染防止対策のため以下地域活動は中止となった。

- 1) させぼわんぱくひろば
- 2) V.ファーレン長崎 サンクスマッチ（東彼杵町との交流）
- 3) 小学生対象講座
- 4) 公民館祭り（椎木町との交流）

5. 活動内容

4で示したように、平成25年以降活動を続けてきた学外での地域活動は立て続けに中止となり、新たな活動の開拓が必要となった。

令和3年～令和4年にかけて新たに開拓した活動を以下に記す。

5-1 東彼杵町との交流活動（令和3年度～令和4年度）

長崎県の中央部、大村湾の東側に面した東彼杵郡東彼杵町は、多くの農産物や海産物を特産とする町であり、特に「そのぎ茶」は全国品評会で受賞するなど長崎県を代表する特産品である。

加えて、本学は全学生が茶道を必修科目として取り入れており、抹茶は身近な食材であり、製菓学生に関しては和菓子・洋菓子・製パン製品製造において非常に使用頻度の高い食材の一つである。

令和2年度から観光協会を介して甜茶工場を見学した活動を皮切りに、令和3年度から学生が考案した商品の提案を通して、交流を深め新たな活動へとつながった。

（1）「かっちえてアイラブ西九州フェア」イベントへの参加

日 時：令和3年10月30日(土) 10:00～17:00

参加者：本コース1年生6名、2年生2名



販売商品（左：まりとっ
ちゃ 右：そのぎの葉）

販売商品: まりとっちゃ (そのぎ茶を使用したマリトッツォ)、そのぎの葉 (そのぎ茶を使用したクッキーサンド)、栗蒸し羊羹 (そのぎ茶に合う和菓子) 計 40 食

4 月より学生たちが考案したそのぎ茶を使用した商品を 6 月に観光協会へ提案し、その中から選出された 2 品が、佐世保市物産振興協会主催の物産展「かっちえてアイラブ西九州フェア」にて販売することが決定した。

この物産展は、西九州させほ広域都市圏 12 自治体の物産品が一堂に会し、長崎県内の農産品・銘菓・工芸品など多くの特産品が販売される物産展である。

東彼杵町観光協会では、東彼杵町の特産品であるそのぎ茶を販売しており、今回は東彼杵町ブースの一部で、学生がそのぎ茶を使用した商品等を販売した。新型コロナウイルス感染症対策のため例年より規模は縮小されたが、学生たちは菓子商品の販売に加え、そのぎ茶の試飲販売の協力も行った。販売した菓子は販売開始から約 2 時間で完売し、東彼杵町および本コース活動の PR に貢献することができた。



販売の様子

(2) 「東彼杵町ツアー」の実施

日 時：令和 4 年 7 月 1 日(金) 10:00 ~ 15:00

参加者：本コース 2 年生 8 名

訪問先：〈特産物販売店〉Umino わ、ソリッソリッソ

〈飲 食 店〉海月食堂、goocafe (グーカフェ)

〈甜 茶 工 場〉forthees (フォーティアーズ)

〈そ の 他〉そのぎ茶園

東彼杵町まちづくり課商工観光係および販売店、工場経営者からそのぎ茶を中心とした東彼杵町の特産品について説明と観光地の案内を受けた。様々な角度から東彼杵町の魅力を見出し、今後の商品開発活動に役立つ目的として実施した。

学生アンケートから抜粋

- ・ 今まで深く考えずに使っていた抹茶が、いろいろな工程を経て粉末状になっているのを知り、生産者の方々の思いなどを知れてとてもためになりました。
- ・ 経営者の方のお話を聞いて、今後はターゲットにする年齢層を決め、その方々に合った商品を開発していきたいと思いました。また、長崎県産の食材をどういうものがあるかもっと調べていこうと思いました。
- ・ そのぎ茶以外にも長崎県産の特産品をもっと知って、長崎県のことを PR していきたいと思いました。



「umino わ」訪問の様子



そのぎ茶園見学の様子

(3) 観光列車「ふたつ星 4047」開通イベントへの参加

日 時：令和3年9月23日(金) 16:20～16:30

参加者：本コース2年生 5名 (製造5名、うち配布2名)

配布製品：抹茶マーブルパウンド
ケーキ、抹茶フィナン
シェ 計90食



配布製品
(左：抹茶マーブルパウンドケーキ
右：抹茶フィナンシェ)



菓子無料配布の様子

東彼杵町まちづくり課商工観光係から依頼を受け、観光列車が千綿駅に停車する10分間を利用し、記念撮影のために降車される乗客約90名を対象に学生が考案した2品を無料配布し、東彼杵町のPRおよび本学のPR活動を行った。

5-2 (株)FAながさきとのコラボ企画 (令和4年度)

令和4年度より国際連合の持続可能な開発目標 (SDGs) 「2. 飢餓をゼロに」「12. つくる責任、つかう責任」の観点から食品ロス削減をテーマに (株)FAながさきとの共同活動を開始した。

この活動は、佐世保市相浦町の直売所「食彩の里 よかばい相浦」を運営する (株)FAながさきからご提案を受け実現した活動である。

「食彩の里 よかばい相浦」では、近隣で採れる農産物や海産物をはじめ多くの食材を販売する直売所であり、自社でブルーベリーやマンゴーなどを栽培・収穫し加工、販売を行っており、洋菓子も製造・販売を行っている。そして、この洋菓子製造の際、スポンジ生地地の切れ端が大量に破棄されていた。今回は学生たちが、この切れ端を新たな商品へ生まれ変わらせることをテーマとし、活動を開始した。



破棄されていたスポンジの切れ端

〈活動内容〉

4月 2年生 (8名) を対象に課題「スポンジの切れ端を使った菓子の考案」を提示

5月 考案品を (株)FAながさきへ提出し、提出した9品の中から3品が選出
(株)FAながさき立会のもと3品の試作を実施

6月 試食会開催

評価者：(株)FAながさき、食彩の里 よかばい相浦、洋菓子非常勤講師
本学副学長、本学事務長 計8名

6月26日 店頭販売 (よかばいマルシェ) 9:00～11:00

試食会では、学生による商品プレゼンテーション後に試食を実施し、それをもとに評価者は5項目 (見た目・味・全体のまとまり・商品PR・価格) に対し5段階評価をした。今回の投票はGoogleフォーム



試食会の様子



投票結果

で実施し、その場で集計および結果発表を行った。

集計の結果、グランプリ受賞した商品は「ラムボール」、準グランプリはSDGsカップショートであったが、グランプリ受賞商品に加え、他2品に関しても店頭販売が決定した。販売当日の販売数は各20食に抑え、試食品を各50食製造し、活動のPRを行った。

尚、この活動に関しては、九州文化学園グループ主催のSDGs記念イベントにて取り組みを報告した。



販売および試食配布の様子

5-3 高校生対象試食会

第1回

日時：令和4年 5月27日(金) 13:30～15:00

参加者：本コース2年生 8名

対象者：九州文化学園高等学校 食物調理科2年生(48名)

試食品：8品(抹茶クッキーシュー、抹茶フィナンシェ、マンゴーヴェリーヌ等)

第2回

日時：令和4年 12月16日(金) 13:30～15:00

参加者：本コース1年生 8名

対象者：九州文化学園高等学校 食物調理科1年生(54名)

試食品：6品(ブルーベリーダクワーズ、桃のチョコレート、そのぎ茶チーズタルト等)

九州文化高等学校食物調理科の生徒を対象に、本コース学生が考案した商品のプレゼンテーションおよび試食を行い、今後の商品販売へとつなげる活動である。

4月～6月にかけて各自で考案したレシピをもとに試作を3回程度実施し、その都度、本コース学生および教員での試食・評価を続け、その後、外部評価として九州文化学園高等学校 食物調理科の生徒を対象に試食会を実施した。評価方法は、5項目(見た目・味・全体のまとまり・商品PR・価格)に対し5段階評価を実施した。

アンケート結果は後日、学生に返却し5段階評価をもとに改良を進め、学内販売および学外対象無料配布(活動内容5-1(3)に記載)商品として学習成果披露を行った。また本学で12月に開催された茶道大会来客者60名を対象にお土産菓子として贈った。



学生のプレゼンテーション



高校生の試食および評価の様子

6. 課題

新型コロナウイルス感染症蔓延防止対策のため、令和2年度では地域活動が大幅に減少し、それに比例して学生の学習満足度は低下していた。¹⁾ その反省を踏まえ、令和3年度以降はこれまでにつながりのあった東彼杵町との交流を深めた活動や地元企業との共同活動を重点に置き、様々なイベントへ参加した。また高校生への試食会を新たに開催することにより、高校生に行ったアンケートでは「短大でどんな勉強ができるのか知れてよかった」「自分も商品開発をしたい」など本コースの商品開発活動をPRする活動へとつながった。さらに商品活動を行った学生アンケートでは「学外で活動することができて楽しかった」「自分が作った商品を買って、おいしいと喜んでもらえた」等の声を聞くことができた。

しかし令和3年～令和4年に関する学外販売や学外での無料配布は、少人数に限定して活動を行ったため、一人当たりの学外活動は数える程度である。当然、学生から「もっと学外で販売がしたかった」という不満の声もある。

令和5年度では、新型コロナウイルス感染症防止対策の緩和が予想されるため、令和3～4年度の地域活動に加え、コロナ流行前の地域活動も実施できることを期待している。学生たちに多くの学習成果を披露する場を提供し、お客様の「おいしかった」「また食べたい」という声を直接聞き、笑顔を見ることで製菓業への就業意欲を再認識できる活動を検討していきたい。

[付記] 本活動は令和3年度・令和4年度長崎短期大学傾斜配分研究費より助成を受け行われたものである。

[参考文献]

- 1) 平田安喜子, 市瀬尚子 (2022) 「長崎県の食材を使用した商品開発活動」長崎短期大学研究紀要第34号,87-92